

# 2023年度第1四半期決算説明会

2023年8月3日

参天製薬株式会社



## 1

### 業績概要



越路 和朗

CFO  
兼 チーフ リスク オフィサー

## 第1四半期決算サマリー

---

各地域とも順調に推移し、前年同期比増収増益  
中長期的な成長に向けた戦略の実行  
構造改革も前倒しで進捗し、米州事業の合理化に目途

### ■ 2023年度第1四半期実績

- 売上収益：前年同期比+10.5% (724億円) / 対通期予想進捗率27%
- コア営業利益：前年同期比+46.6% (155億円) / 対通期予想進捗率34%

### ■ 収益性の改善：米州上期中の合理化完了に向けて期初想定を上回る進展

- 米州1Q貢献利益:-4億円・対前年8億円の改善  
米州1Q地域利益:-10億円・対前年10億円の改善。通期ベース前年比約50億円改善に目途
- 米州における製品ライセンス契約及び資産譲渡契約の締結により2023年度の米州貢献損失・地域損失の更なる縮小を2Q以降見込む
- 海外1人当たり売上高：対前年二桁成長<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>：中国・アジア・EMEAのCFU人員数で算出。為替要因及び一過性要因を除外

6

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(越路)：6 ページご覧ください。

2023 年度第 1 四半期は各地域とも順調に推移し、対前年同期比で増収増益となりました。売上収益は 10.5%増、724 億円。コア営業利益 46.6%増加し、155 億円となりました。

5 月に、今年度の通期業績予想は想定されるリスクを織り込んだ保守的な数値、そのように申し上げましたが、それを上回る水準を目指していくと言いましたけれども、これを超過達成に向けてこの第 1 四半期、順調なスタートが切れたと認識しております。

新中期経営計画における基本方針の一つに、収益性の改善、これがございましたが、今期の大きなマイルストーンの一つであります米州事業の上期中の合理化の完了、これにつきましては通期ベースで約 50 億円の収益改善に目処が立ったと認識をしております。

当第 1 四半期における収益改善については、米国の部分についても期初の想定よりも加速している、そういう実情でございます。7 月 19 日にリリースしましたとおり、米州医薬品事業の製品ライセンス契約および資産譲渡契約の締結が完了して、これから移管作業を進めていくという状況でございます。

また、中期経営計画の中で掲げております海外事業の収益性、これにつきましては中国、アジア、EMEA 合計での 1 人当たり売上高、これらは一過性要因を除いても 2 桁成長、そのようになりました。生産性の向上に向けて、高い意識を持って全社で取り組んでおります。

各地域での力強い推移により、  
売上収益・営業利益ともに計画以上の水準で着地

	2022年度 第1四半期実績	2023年度 第1四半期実績
USD (円)	129.16	138.01
EUR (円)	137.80	149.80
CNY (円)	19.58	19.58

(単位：億円)	2022年度 第1四半期		2023年度 第1四半期		
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率
売上収益	655	-	724	-	+10.5%
売上原価	284	43%	300	41%	+5.5%
売上総利益	371	57%	424	59%	+14.3%
販売費及び一般管理費	194	30%	207	29%	+6.3%
研究開発費	71	11%	62	9%	-12.4%
コア営業利益	106	16%	155	21%	+46.6%
ノンコア費用	-	-	5	1%	-
製品に係る無形資産償却費	26	4%	23	3%	-8.8%
その他の収益	3	1%	3	0%	-8.9%
その他の費用	0	0%	2	0%	+388.0%
営業利益	83	13%	127	18%	+53.0%
金融収益	14	2%	11	1%	-24.2%
金融費用	1	0%	2	0%	+37.1%
持分法による投資損失	5	1%	8	1%	+46.5%
税引前四半期利益	91	14%	129	18%	+41.8%
法人所得税費用	24	4%	25	3%	+3.2%
(税負担率)	26.2%	-	19.1%	-	-7.1pt
四半期利益	67	10%	104	14%	+55.5%
コア四半期利益	77	12%	128	18%	+65.2%

## 売上総利益

## 前年同期比 +14.3%

- 売上収益：中国の市場回復を含む海外の順調な推移（前年同期比+25%）に加え、EMEAにおけるIkervisの保険償還引当て見直し（一過性/+23億円）もあり前年同期比+10.5%
- 売上原価：地域/製品構成および、上記EMEAの引当て要因により原価率が前年同期比-1.9pt

## 営業利益（コアベース）

## 前年同期比 +46.6%

- 厳格なSG&Aコントロールを含むコスト最適化の効果等により、販管費比率が低下

## 営業利益（IFRS）

## 前年同期比 +53.0%

- 構造改革関連費用：計6億円（ノンコア費用及びその他の費用）

## 四半期利益（IFRS）

## 前年同期比 +55.5%

- 一過性要因により税率が低下（一過性要因を除いた税率：21.4%）

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(越路)：では次のページ、7ページをご覧くださいませでしょうか。

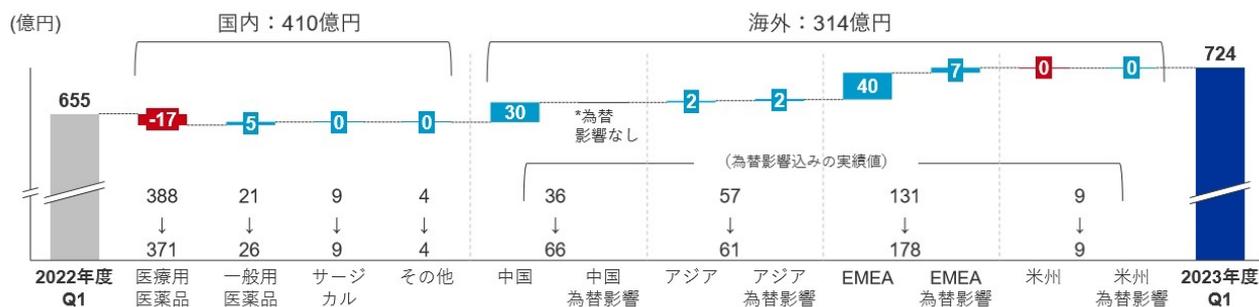
こちら第1四半期の損益の状況です。まず売上は、中国における市場回復を中心に為替影響も含めて各地域で力強く推移したと認識しております。連結ベースで10.5%の増加率となりました。

EMEAにおいてはIkervisの保険償還引当に関連する戻入れ益、こういったものが23億円ほど一過性の要因としてありましたが、それらを除いても海外売上収益は前年同期比で25%、力強いスタートとなりました。

売上原価については、製品構成の影響もありますが、前年同期比で見ますと対売上収益比率が低下しております。加えてコスト最適化活動など、販管費率が低下したことによりまして、コア営業利益は対前年同期で46.6%増加、そのようになりました。

コア下においては、構造改革費用の計上や税率の一過性要因等の低下もございまして、四半期利益といったしましては前年同期比で55.5%増、104億円、そのようになりました。

## 中国の市場回復含め各地域とも順調に推移し、為替影響除き前年比+9.0%



日本	対前期 -3.0%：アレジオン類の前期末市中在庫過多の反動はあったが、ジクアスLX等主力品を中心に伸長。OTCもインバウンド需要が回復傾向
中国	対前期 +81.3%（為替影響除外 +81.3%）：COVID-19再拡大から市場は回復。ジクアス・タブロス等の主力品およびマルチチャネル製品が好調に推移
アジア	対前期 +7.5%（為替影響除外 +4.3%）：主要国・主要製品が堅調に推移
EMEA	対前期 +36.3%（為替影響除外 +30.6%）：強みのある緑内障製品を中心に伸長。昨年度末に上市したRocklatanも順調に推移。Ikervis一過性要因含む
米州	対前期 +0.1%（為替影響除外 -5.5%）：医薬品事業の製品導出・売却を決定。移管作業を進行中

<sup>8</sup> ※顧客の所在地をもとに国または地域に分類。EMEA：欧州・中東・アフリカ地域。

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(越路)：8 ページでございます。こちら売上収益の増減要因示しております。

まず売上、この四半期 724 億円の内訳ですが、国内が 410 億円、海外が 314 億円、ご覧のとおりでございます。海外比率としては 43.3%です。

日本につきましては前年同期比で 3%の減収。これは主に昨年度末、花粉の大量飛散に伴いましてアレジオン、これの市中在庫が一時的に積み上がってきた、それが 4 月に反動減となって現れたことによるものです。一方で、ジクアス LX などの主力品、これらは計画どおりに推移していることに加えて OTC、こちら収益事業でございますが、についてもインバウンド需要が回復基調にある、そのような状況でございます。

海外につきましては、まず中国が COVID-19 からの市場の回復、これを受けて大幅な成長でございます。ジクアスなどの新製品、マルチチャネルで販売しているヒアレイン等の製品も含めて、全体として市場の回復に伴い好調に推移をしております、中国では昨年同期比と比べて為替レート、円と中国元が一緒でございましたので、為替影響なく、対前年で 81%増、プラス 30 億円でございます。

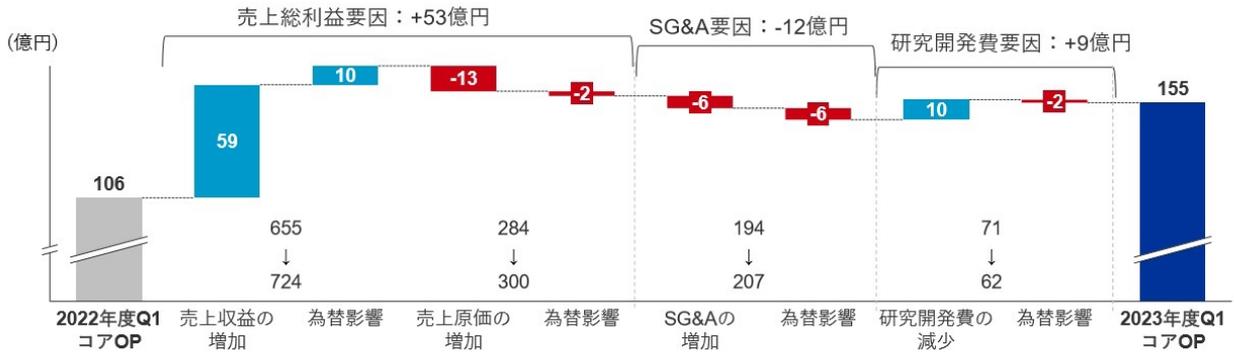
これは、昨年度は相当特殊な状況でしたが、一昨年度の同期と比べてもほぼ同じ水準、そのようなところでございまして、徐々に回復に向けて進捗している。そのように認識しております。

アジアと EMEA については為替影響も含めて主要国で堅調に推移をしております、EMEA については先ほども説明しました一過性要因、これが 23 億円、Ikervis の引当の戻入れ益、これが含まれているという状況です。

あと米州は医薬品事業の導出売却を決定しているのですけれども、その前の段階でございますので、第1四半期としては前年同期とほぼ同等額、9億円でございます。

2023年度第1四半期 コア営業利益増減要因

好調な売上推移とコスト最適化により、コア営業利益は前年同期比で大幅増加



売上総利益要因	売上収益の為替も含むプラス要因、地域/製品構成の変化や一過性要因による原価率低下（対前年同期-1.9pt）もあり コア営業利益影響は対前年同期+53億円
SG&A要因	売上運動費用項目の増加はあったが、コスト最適化と厳格な管理等によりSG&A比率は低下（対前年同期-1.1pt） コア営業利益影響は対前年同期-12億円
研究開発費要因	各プロジェクトの開発ステージの変化に伴う費用計上時期の変動により、 コア営業利益影響は対前年同期比+9億円（研究開発費比率：対前年同期-2.2pt）。研究開発への積極的な投資の方向性や通期での計画に変更なし

9

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(越路)：9 ページはコア営業利益の増減要因でございます。こちら対前年同期で 49 億円の増加となりました。

左から、まず粗利要因でございます。売上収益の各地域での好調な推移や為替の影響、これによりましてプラス 69 億円。一過性要因や製品ミックスによる原価率の低下等もありまして、粗利益全体としてはプラスの 53 億円、前年同期比でなりました。

販管費につきましては、事業活動に伴うコストの増加と一方、コストの削減活動ですね。それとロイヤリティの減少、あと投資見直しによる減価償却費の増加抑制等、これら複数要素がございますがそれらを最適化することによって、販管費比率としては前年同期比で 1.1 ポイントの低下をしております。絶対額では為替の影響も含めて対前年で 12 億円増加をしておりますが、適切に対売上比率でコントロールできている、そのように認識をしております。

研究開発については、各プロジェクトの開発ステージが変化しておりまして発生費用の増減がございますが、今年度第 1 四半期については対前年同期で 9 億円減少。そのような状況です。

これらによりコア営業利益、金額といたしましては 155 億円と相成りました。

	FY2022	FY2023
	実績	予測
USD (円)	135.40	130.00
EUR (円)	140.97	140.00
CNY (円)	19.72	19.00

## 売上収益2,730億円、コア営業利益460億円、年間配当32円を予想

(単位：億円)	2022年度		2023年度		
	実績	対売上 収益比率	予想	対売上 収益比率	対前期 増減率
売上収益	2,790	-	2,730	-	-2.2%
売上原価	1,130	40%	1,110	41%	-1.7%
売上総利益	1,661	60%	1,620	59%	-2.5%
販売費及び一般管理費	935	34%	870	32%	-7.0%
研究開発費	283	10%	290	11%	+2.5%
コア営業利益	442	16%	460	17%	+4.0%
ノンコア費用	27	1%	8	0%	-70.5%
製品に係る無形資産償却費	95	3%	94	3%	-1.2%
その他の収益	35	1%	6	0%	-83.0%
その他の費用	386	14%	44	2%	-88.6%
営業利益	-31	-	320	12%	-
金融収益	12	0%	10	0%	-13.2%
金融費用	15	1%	8	0%	-46.6%
持分法による投資損失	24	1%	24	1%	+1.6%
税引前当期利益	-58	-	298	11%	-
法人所得税費用	92	3%	74	3%	-19.4%
(税金負担率)	-	-	25%	-	-
当期利益	-150	-	224	8%	-
ROE	-	-	8%	-	-
コアROE	10.5%	-	12%	-	-
コア当期利益	332	12%	345	13%	+3.8%

### 通期業績へ影響する要因

#### 売上収益項目

##### 日本

- ・ 主力品後発品の参入有無及びタイミング
- ・ 新製品（レバミピド点眼液）の立ち上がり
- ・ 花粉飛散動向

##### 海外

- ・ 中国：市場回復の継続性
- ・ アジア・EMEA：主要国における売上推移および、それに合わせたCMO製造品の安定供給
- ・ 米州：製品ライセンス契約及び資産譲渡契約に伴う一時金受領

#### 費用項目含めその他

- ・ 全社構造改革の進捗。特に米州赤字幅縮小の加速化

10

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(越路)：10 ページですが業績予想についてです。

この通期の業績予想、現時点では変更せず、ご覧のとおり売上 2,730 億円、コア営業利益 460 億円、配当としても 32 円ということで、5 月の発表を据え置いております。

この第 1 四半期には一過性要因があること、あと第 2 四半期以降も不確定要因はあるものの、とはいえ全体といたしましては今申し上げた業績予想、これらは超過をできるものと現時点では認識をしております。

しかしながら、では具体的にいくら超過するのか、そういう具体的な上方修正を行うには個別製品等で売上の各々の見極めを行う必要もございまして、また抑制した費用を研究開発等のパイプラインに先行投資として投下する、そういったことも同時に考えていかなければなりませんので、今回においては据え置きとして現在、数値を検証しております。いずれにいたしましても絶対額、費用や収益ともに改善はできる、そのように考えております。

本日時点では、資料の右側に書いているように、通期業績に影響を与える要因をいくつか挙げております。日本における主力品の後発品の状況、花粉の飛散動向、中国における市場回復の持続性、これは予定ではこの第 1 四半期よりもさらに改善をしていく、そのような予定でおりますが、それと海外での全般の売上の粗利益への影響、全社の構造改革の進捗、こういったところを利益に直した場合にどのような数字になるか。そこを先ほど申し上げた先行投資等とも併せて考えているという状況でございます。

現時点ではかなり強いモメンタムであると認識しておりますが、まだ4分の1経過したところということで、今後数ヶ月の市場および自社の動向を注意深く観察しながら、業績見通しについても適宜適切にお伝えしていく予定にしております。私からの説明は以上でございます。

## 2

### 研究開発アップデート



ピーター・サルスティグ  
チーフメディカルオフィサー

## 緑内障、屈折異常領域において進捗

既存疾患領域	STN1011101 タブコム/タブティコム	緑内障	中国でのP3試験で、 <b>主要評価項目達成</b> (海外データを活用し2022年12月に申請済み)
新規疾患領域	STN1013400 AFDX0250BS	近視	日本でのP2a試験で、 <b>FPI<sup>1</sup></b>
	STN1013600 ウルソデオキシコール酸	老視	米国でのP2a試験で、 <b>LPO<sup>2</sup></b>

1. FPI, First Patient In. 2. LPO, Last Patient Out

12

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(サルスティグ)：12 ページをご覧ください。

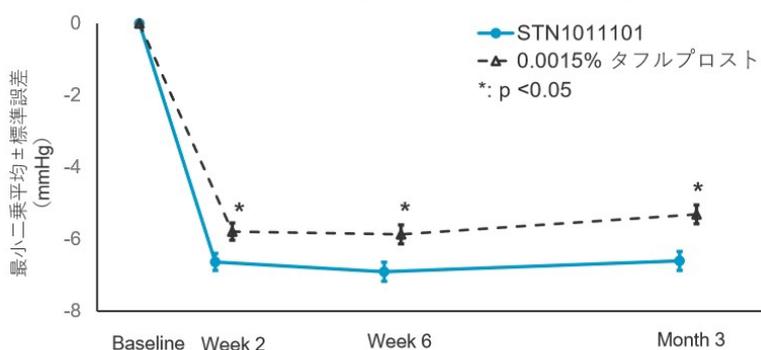
この四半期では緑内障および屈折領域で進展がありました。

STN1011101 は日本などでタブコムとして販売している緑内障治療薬であり、既に中国では海外のデータを活用することでスケジュールを前倒しして申請しています。今回、中国で実施した P3 試験のトップラインリザルトを取得しましたので、後ほど説明させていただきます。

屈折異常領域においては、次世代の近視進行治療薬として期待している STN1013400 の POC 試験を日本で開始いたしました。試験終了は 2025 年度を予定しています。また、米国で実施中の老視を対象とした STN1013600 の POC 試験では、Last Patient Out を達成しました。今年度中の終了を予定しています。

## 中国でのP3試験にて主要評価項目を達成。安全性および忍容性を確認

平均昼間眼圧のベースラインからの変化 (ANCOVA解析、中国人データのみ)



- ▶ STN1011101 の眼圧下降作用は、0.015%タフルプロスト単剤投与に対して優越性を示した (3か月時点、ペイジアン法活用)。
- ▶ 中国人のみの情報を用いた解析においてもSTN1011101はタフルプロスト単剤に対して有意な眼圧下降作用を示し、EUにおける試験の再現が得られた。
- ▶ 安全性に関しても、新たな問題は見いだされず、中国人でのSTN1011101の忍容性が確認された。

13

© 2023. Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



(サルスティグ)：次に STN1011101 の中国での P3 試験の結果を紹介させていただきます。13 ページです。

STN1011101 は緑内障治療薬であり、タフルプロストとチモロールマレイン酸の配合剤です。

これまで海外で実施した試験同様に、タフルプロスト単剤投与に対する STN1011101 の眼圧下降作用の優越性が示されました。

また、安全性に関しても新たな問題は見出されず、中国人患者における忍容性が確認されました。先ほどお伝えしたとおり、既に海外のデータを活用し申請しています。今回取得した中国人でのデータは承認確度を上げるものと期待しております。以上となります。

## 質疑応答

### Q1-1

第1問目が、Ikervisの保険償還の戻しみたいな一時的な話が出てきていました。これは二十数億円、22～23億円でしたか、これはQ1だけなのかということと、あとちょっとごめんなさい、これ会社予想に入ってるか、入ってないか。その2点の確認をお願いします。

### A1-1

(越路)：Ikervisの引当の戻入れ益、これ23億円、これ第1四半期のみでございます。会社の予想に含まれております。

### Q1-2-1

二つ目です。

アメリカについて基本的なコスト削減のお話をいただいた上に、今回Q2の時点で、後発事象で起きているライセンスと資産譲渡の影響で、おそらくUSD 8MMってというのは多分数字として上がってくるかと思うんですが。これはQ2に入ると思うんですけども、これも会社予想どおりなのかどうなのか。あとQ2に出てくる利益的なインパクトはそのUSD 8MMだけなのか。その辺をちょっとお願いします。

### A1-2-1

(越路)：そういう点では、USD 8MMといいますか。まず、Q2に現れるのは、Q2なのかQ3なのかタイミングに依るのですが、7月19日のリリースしたもので、2社に対して三つのコンポーネント、三つの案件、契約という形で締結をしております。その総額で売上に計上するもの、こちらが合計でUSD 9MMになります。売上に計上するもの。

そのうち第2四半期に計上されるものは、少なくともUSD 3MMが計上される。残りのUSD 6MM、こちらは第3四半期か第4四半期か。ちょっと契約の、売上の計上のトリガーのイベントいかんというような状況でございます。

残りですね、USD 8MM のもう一つ、三つ目のコンポーネント、今申し上げたのは、Harrow Health への Cationorm と Verkazia のところが USD 3MM。あと、Visiox に対する OMLONTI の譲渡が USD 6MM、これは導出です。

一方で、旧 Eyevance 製品の Harrow Health への資産譲渡、これの対価が USD 5MM。先方にて開示されてますが USD 5MM と。これは IFRS 上、売上収益ではなく、その他収益にて計上することを予定しております、これは高い確率で第 2 四半期を想定しております。以上で回答になってますでしょうか。

Q1-2-2

これ全て会社予想に入ってるんですか。

A1-2-2

(越路)：入ってないです。金額が小さいので入ってないです。

Q1-2-3

分かりました。ということはトータルだと 9 足す 5 だから USD 14MM ですね。

A1-2-3

(越路)：そうですね、はい。

Q2-1-1

一つはヨーロッパです。Ikervis の件は、今のご説明で分かったつもりなんですけど、それ以外の。Ikervis の、これで残り、年間 66 億円であと 25 億円しか残ってなくて。残りあと 25 億円だととっても寂しい気がするんですが、それでいいんですかっていうのと。

あと同じくヨーロッパ関連の売上で、コンプトとか、タプロスもそうだったかな、ちょっと出来がいいんですけど、これは単純にいいのか、対計画で。何かワンタイム系な、トリックとは言いませんが何か理由があるのかご説明お願いします。

## A2-1-1

(越路)：通期のところには先ほどの23億円の一過性要因は含まれておりません。連結ベースでの数値には含まれておりますが、66億円には含まれておりません。

そういう点では、この一過性要因を含めると、通期では66億円ではなくて89億円というような形ですね。最終的に円安の効果で90億円を超過する水準になると思います。

緑内障関連の製品については、これ今後も続くかどうかというところは、今のところは通期見込み通りと思っております。

これ意外と強かった、好調だったというところは、ジェネリックの影響を若干保守的に考えてたんですけど、それに対してある程度、我々のところでシェアをまだ維持できているということです。今後についても第1四半期と同様のモメンタムが維持できるかどうかは、ちょっとまだこれから様子を見極めるというところが、現時点でのコメントになります。以上です。

## Q2-2

もう1問は、パイプライン、ウルソの老視のやつです。Last Patient Outが終わってるということは、今年度中の終了とおっしゃっていましたが、今度の3ヶ月後のQ2でトップラインのデータみたいなものはお示しいただくのは可能なんでしょうか。

## A2-2

(サルスティグ)：STN1013600に対しては、今年度中に試験を終わらせる予定であります。データのシェアができるタイミングに関しましては、まずデータを詳細にレビューして、それが終わってからの共有となりますので、もちろん追加の分析解析を行う必要があるかどうかによって変わってきますけれども、おそらくタイミングとしてはQ3、Q4を予定しております。

## Q3-1-1

私からも最初、会社計画との乖離のところについてお伺いできればと思います。

越路さんのお話の中で、何度か非常に力強いといいますが、上振れているというようなコメントがございました。一方で、Ikervisとかは計画に入っているというところで、具体的にどういった品目ですか、どういった地域、もしくはコストとか、この辺りどういったものが現時点で上振れにつながっているのか、というところについて1点目、ご解説いただけますでしょうか。

### A3-1-1

(越路)：そういう点で、会社のまず期初の業績予想に含まれている、含まれてないという観点から説明をいたしますと、日本は前年対比ではご覧のとおり若干のマイナスになっておりますが、これは想定の範囲内、想定よりも若干強いというような状況でございます。

中国も前年対比では81%というところでございますが、当初の計画よりもこのモメンタムは若干強うございます。通期の予想、中国の地域別の売上利益に対する進捗率としては、25%下回ってるということを感じられるかもしれません。しかしながら、一応これ、コロナ禍からの回復、そういったところを見込んでおりますと、第2四半期以降もさらにドライブがかかってくると認識をしております。

アジアはほぼ想定とおり。EMEAにつきましては、全体的に、緑内障を中心に想定よりもやや強く、結果的に前年対比でも、先ほどの一過性要因を除いても成長しているという状況でございます。

米国におきましては、赤字幅をどれだけ狭めるかということでございますが、昨年度の実績、これは今日お配りしている資料の15ページに書いております。昨年度はマイナス12億、今年度はマイナス4億でございますが、このマイナス4億という数字も、円安の影響等はあるんですが、想定よりは若干、数億円低い水準に止められてると、費用を抑制できているというような状況でございます。

したがって、それとあと先ほどの7月19日の導出、あるいは譲渡によりまして、通期ではマイナス11億に赤字が縮小するということですが、これよりも、もう少し経費の支出というものを、活動を完全に停止しますので、もう少しこのところでも費用の抑制により赤字幅が縮小するのではないかとそのように考えております。以上でございますが答えになってますでしょうか。

### Q3-1-2

そうしますと、売上高は全般に今ご解説いただいたように好調な中で、コスト面の方については期初の計画通りにといたしますか、きちっとコントロールできているので、利益としても超過しているという理解でよろしいですか。

### A3-1-2

(越路)：そうですね、はい。

### Q3-2

2点目が、国内のジクアス LX の動向についてお伺いしたいのですが。この第1四半期も非常に前同比では伸びておりますけれども、ここの成長というのは、基本的には LX の貢献と捉えてよいのかというところと、もし可能であれば、どの程度 LX に切り替わっているのか等々、現在の状況について教えていただけますでしょうか。

### A3-2

(越路)：ここの数字の伸びというのは、はい、LX の伸びによるものです。LCM 製品の伸びです。数値的に切り替わっているところ、切り替わりの度合いを定量的に申し上げますと、6月末時点で、定量的に50%ですね、数値、数量ベースでは入れ替わっているという形です。

これは金額ベースに直しますと、薬価が違いますので、LX の比率がさらに高くなります（参天修正）

### Q4-1

ちょっとハウスキーピング的な質問になっちゃうんですけども、一つは税金負担。税負担が今回下がったことについて、私聞き逃したのかもしれませんが、この理由を教えてください。

これはあくまでも一過性で、今期ですね、Q2以降どうなるのかという。予想を変えられてないんで、多分そのまま戻ってくるんだろうなとは思いますが。まずこの辺を。25%ですよ、予想ですと。この辺、まずどうなるのかちょっと教えてください。

### A4-1

(越路)：今年度、これは売上のところに、先ほど申し上げた Ikervis の引当の戻入れ益等が入っているので、課税所得が若干いびつになっている、その影響があります。とはいえ、実際に、利益、課税所得の地域別の構成というものが、徐々に海外の低税率国にシフトをしております。実際名目上は19.1%ですけれども、実質的には大体21%ぐらいかなと我々としては認識をしております。

要因は、先ほど申し上げた地域別構成の変化と、あと引当の関連のところ大きいというところがございます。

最終的に通期のところは、先ほどご指摘ありましたように、25%が最終的な出来上がりになるのではないかと。これも若干下がるかもしれませんが、そういうふうな水準になると認識をしております。

#### Q4-2

もう一つ、米国の赤字についてちょっとお話がありましたけれども。Q1、大体3億6500万円ぐらいの赤字に対して、これ地域貢献利益で見てるので、11億円の赤字が通期予想だと思うんですけども。

二つこの点についてお聞きしたいのは、やっと米国事業が止血できるようになったところで、次のステップを考えるのはちょっと時期尚早かもしれませんが、とはいえ米国市場を諦めたわけではないという、中計の中の伊藤社長のコメントもあるかと思うんですが。

何か米国における、探索的な、事業の探索ですね、新薬の探索じゃなくて。こちらの方の動きを何かお考えになって、その部分でコストが積み上がっていく、コスト投入する可能性があるのかどうかということ。それがなくても、今、予想を変えてないんで何とも言えませんけれども、赤字は縮小していくよという見方に変わりはないのか。この辺ちょっと確認なんですけれども教えてください。

#### A4-2

(越路)：そういう点では、赤字は縮小していくというこの流れは、期初にも申し上げたとおりでございます。あと、伊藤社長が過去の説明会等でも申し上げているように、米国に再度参入するというのは、しっかり差別化された競争力のある製品、これの開発が進展していることが、最低、前提条件になるという点では、少なくとも今年度あるいは来年度に費用がかさんで、何か先行投資的な活動を行うというようなことは全く想定しておりません。

開発の状況いかにということでは、少なくとも24年度後半とか25年度、それ以降、そういう時間軸になると思います。

ただ一方で、一つだけございますのは、我々、これ資料の7ページ等がございます、持分法による投資損失、これは主に米国にある関連会社の損失のものでございまして、これAlphabetグループ、Googleのヘルスケアの会社であるVerilyの合併会社ですね。こちらでの活動、その持分法で49%を連結しているという状況です。

ここは医療機器の開発をやっている関連会社でございますので、米国での活動という点ではこの部分が今、止血はしていますけれども、唯一流血してるのがこの部分とお考えいただければと思います。

#### Q5-1-1

7ページ目と8ページ目を見ているんですけども。お話があったように、非常に好調で、売上収益も2桁伸びて、コアもフルも5割増ということなんですけど。その中でも非常にいいのが、7ページ目、8ページ目を読むとやっぱり中国なんですよね。81%増ということ。

ただ、中身と個別製品見ていると、何がいいかっていうと、ご説明もあるんですけど、やっぱりジクアス、タプロスですよね。特に言ってしまうと、ジクアスが昨年のQ4比から95%増、タプロスも23%増でいいんですけど。一方で、クラビットが20%減で、一般用薬はむしろ落ちているというのを考えると、単純にコロナ一巡ということでもないような気もするんですけど。こういう見方間違ってますか。

#### A5-1-1

(越路)：ご質問の趣旨としては、伸びてないのがクラビット、一般用医薬品というところでございますが。クラビットが伸びてないのは、これはまず我々の認識としては、市場は回復基調にあると認識はしているのですが、ただ、手術市場ですね、屈折矯正手術、ここの手術市場についてはまだコロナ前に戻ってないという状況でございます。

そういう点で、クラビットが処方される場所、局面というのは、まさにこの手術の術後の二次感染防止というところになりますので、ちょっとその辺が伸び悩んでいるという状況です。我々通期の予想においても、手術の件数はコロナ前には戻らない、そういう前提でおりましたので。そういう点では、開示しているところで中国のクラビットの若干の弱さは、ほぼ想定範囲内という認識でございます。以上でございます。

あと、一般用医薬品は、それほどまだ優先度合いとして高くないというところ。金額的にも、それよりはリソースの投下するところを、ジクアスあるいは将来成長が考えられる緑内障、そういったところに割いている。その結果が、こちら一般用医薬品の、億円未満の第1四半期の実績に表れてる。そういうふうにご理解いただければと思います。

#### Q5-1-2

ということは、Q1はタプロスとジクアスが伸びたんですけど、後半は、もし手術の回復があるとクラビットが戻ってくるんで、先ほどご説明あったように、むしろ中国のマーケットは非常に強いということですね。

A5-1-2

(越路)：そうですね、はい。

Q5-1-3

もちろんコロナもそうなんですけど、集中購買とかあの辺の影響っていうのはもうあんまり深刻に考えないでよろしいですかね。

A5-1-3

(越路)：いや、集中購買の影響につきましては、そのリスクというものは排除はできませんが。そこは我々一定の割合で織り込んでおりますので、通期では15ページにお示ししていますように、280億円の売上、これに向けて、一応この中にもそういう集中購買のリスクっていうのは織り込んでいる。そういうふうにご認識いただければと思います。

Q5-2

最後です。全体として見たときに、先ほどご説明があったようにIkervisの23億円のスポット要因があるんですけど、これを除いても進捗率が売上収益で27%で、まあまあQ1、スポットを除いてもこのぐらい順調だったというような見方で大筋間違っていないですかね。

A5-2

(越路)：はい、我々そのように認識しております。

Q6-1-1

最後の10ページのところに、通期業績の要因をいろいろ書かれてらっしゃるんですけど。日本とヨーロッパの後発品のところの、御社が今見ている前提と、実際、今どうなってきているのかをもう一回確認させてください。

A6-1-1

(越路)：そういう点ではまず日本でございますが、主力品というところでいくつか製品がありますが、タプロス、こちらについては7月に新製品が上市されているという状況でございます。ただし、しかしながらそれが我々の売上に影響を大きく与えているかと言うと、今のところ、足元の本当直近の状況ではありますが、じゃあこの業績予想、通期の業績予想に大きな影響を与えるようなものではない。そういうふうに思っております。

Q6-1-2

何社だったんでしたっけ。

A6-1-2

(越路)：1社ですね。

あと、アレジオン、アイリーア、こういったところは、アレジオンについては8月の中旬、今月の中旬ですね。アイリーアについても8月中には方向性が確定すると思いますので、今の段階ではちょっとコメントはできないので、今後の通期の見通しについてはこれらを踏まえて検討する。そのような展開になると思います。以上が日本です。

あと、EMEAですね。ヨーロッパのところは、国ごとにおのおの状況が違うので何とも言えないのですが、一定の割合はジェネリックに侵食をされて、我々の主力品は影響を受けるというところは想定はしておりますが、今の第1四半期の段階では、じゃあこの通期の見込みを大きく変えるという、少なくとも下方修正するということではなく、上方修正するということも、第1四半期はよかったですけども、まだちょっと時期尚早というような段階ですね。

Q6-1-3

EMEAは基本タプロスとタブコムジェネリックが国によっては発売されているということですね。

A6-1-3

(越路)：今年ジェネリック上市を想定しているのはタプロスのみです（参天修正）

Q6-2

タプロスのみですね、はい、分かりました。ありがとうございます。2問目ですけど、近視のSTN1012700でしたっけ、のフェーズ3試験は今年度中、12月に終わる予定ですね。このスケジュールは変わらないかどうかを教えてください。

A6-2

(サルスティグ)：おそらく日本についてのお話だと思うんですけども、タイムラインに変更はございません。今期中に結果を共有できるかと思っております。

以上